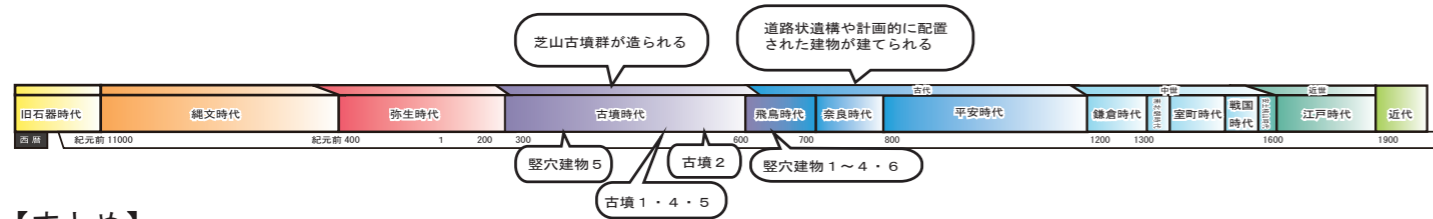


しばやま

芝山遺跡・芝山古墳群 第19次調査 現地説明会資料

調査場所 城陽市富野中ノ芝ほか
調査期間 平成31年4月22日～令和元年9月上旬(予定)
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

芝山遺跡・芝山古墳群は、城陽市の東部に位置し、東西約950m、南北約840mに広がる古墳時代から奈良時代を中心とした遺跡で、奈良時代の掘立柱建物群のほか、古墳時代前期から後期にかけての古墳が集中しています。今回の調査では、新たに6基の古墳などが見つかりました。



【まとめ】

今回の調査で、古墳時代の掘立柱建物が1基、古墳が6基、飛鳥時代の掘立柱建物が5基、奈良時代の掘立柱建物が2棟見つかりました。

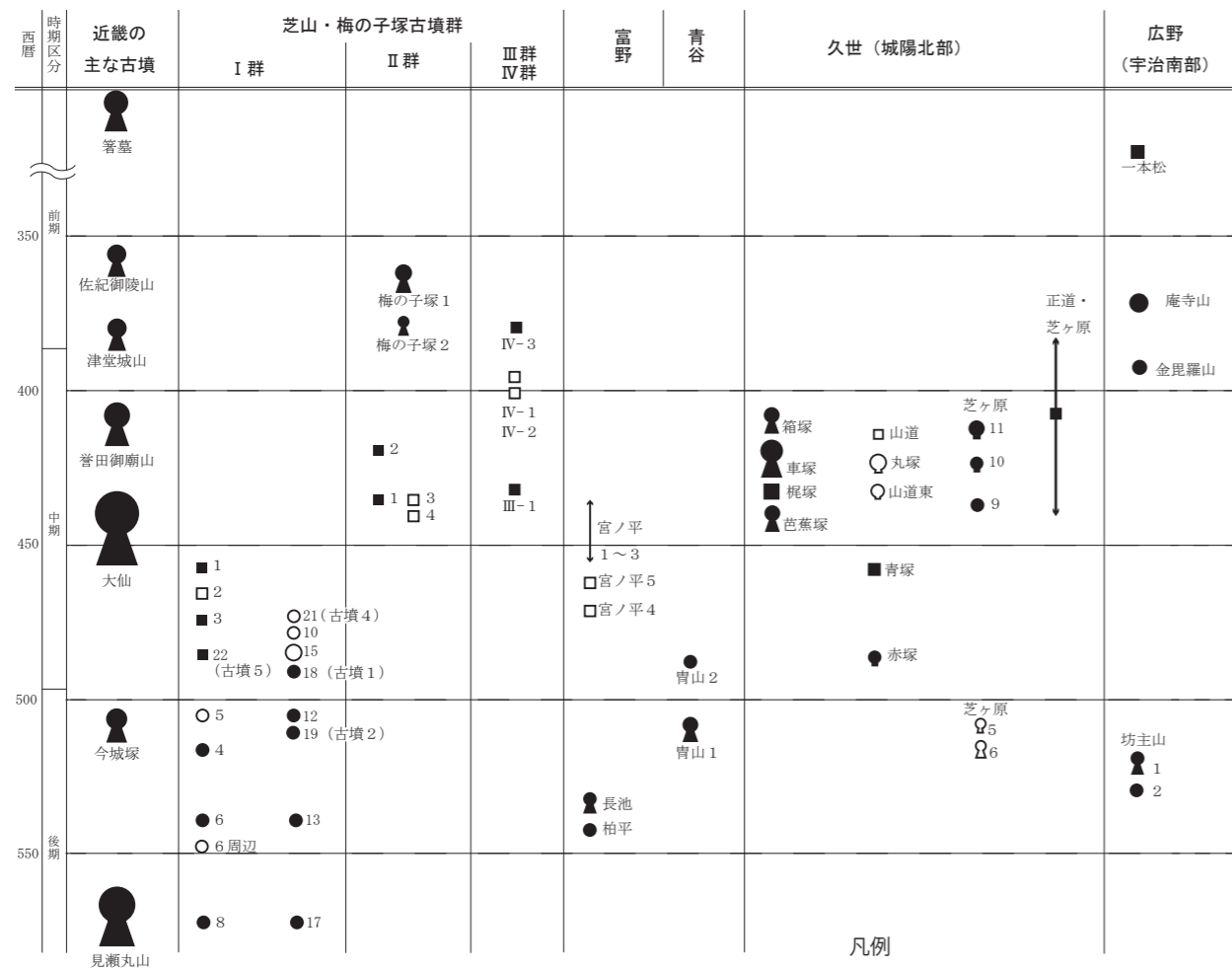
これまでに芝山古墳群では、古墳が26基見つかり、芝山古墳群には古墳時代前期末に造られた前方後円墳の梅の子塚1・2号墳を中心に丘陵上に方墳などが造られます(Ⅱ・Ⅳ群)。古墳時代中期後半になると、梅の子塚古墳群より20m低い丘陵平坦部に方墳のほかに直径20m前後の円墳や小型の円墳が造られるようになります(Ⅰ・Ⅲ群)。古墳時代

後期になると、埋葬施設には、横穴式石室を採用することが多くなりますが、芝山遺跡では横穴式石室を導入せず、木棺直葬が継続していることを確認しました。また、古墳時代後期になると小型の円墳のみが造られるようになります。

今回の発掘調査の成果は、木津川右岸下流域の古墳時代の墓制を考えるうえで貴重な資料となりました。

発掘調査に参加いただいた皆様、ご指導、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

城陽市の主な古墳



凡例
前方後円墳 円墳 方墳 周溝のみ
古墳右横の数字は古墳番号

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

芝山遺跡上空から木津川を臨む(北東から)

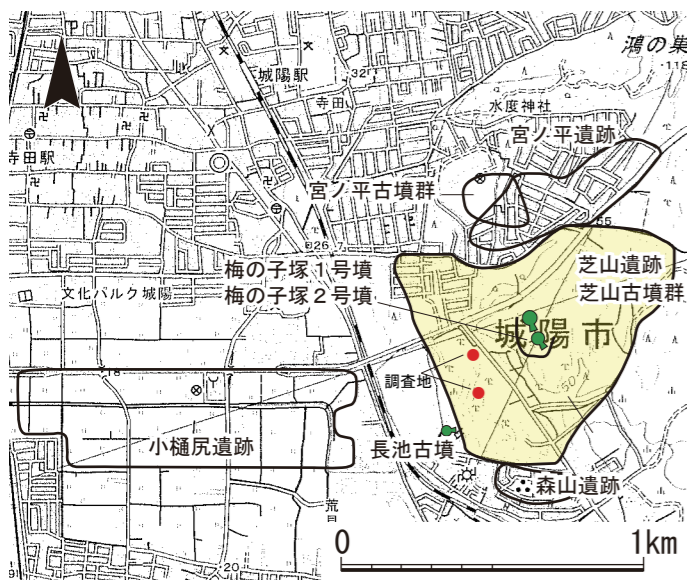


図1 調査地と周辺の主な遺跡(1/25,000 宇治を使用)

～富野を治めた首長の墓～

今回の調査区は、平成 29 年度に大型円墳が見つかったG地区の南西（O地区）と北西（P地区）に位置しています。

発掘調査の結果、O地区では、3基の円墳が見つかりました。古墳2の北側には造り出しがあった可能性があります。

P地区では、1基の円墳と2基の方墳が見つかりました。古墳4の周溝からは多くの須恵器や土師器が見つかりました。



図2 芝山遺跡調査区配置及び遺構分布図

表1 今回の調査で見つかった古墳一覧

古墳番号	地区名	墳形	埋葬施設	墳長 (m)	副葬品	時期	備考
古墳1	O地区	円墳	木棺直葬	推定直径 19m	須恵器・鉄製品	5世紀後半	棺に赤色顔料を塗布
古墳2	O地区	円墳 (造り出し)	木棺直葬	直径 20m	須恵器・土師器・鉄槍・鉄刀 鉄鏃・鉄器・土玉	6世紀前半	棺に赤色顔料を塗布
古墳3	O地区	円墳	—	—	—	不明	周溝のみ検出
古墳4	P地区	円墳	—	直径 17m	—	5世紀後半	周溝東側から須恵器・土師器が出土
古墳5	P地区	方墳	木棺直葬	1辺 10m	須恵器	5世紀後半	棺に赤色顔料を塗布 周溝内から須恵器が出土
古墳6	P地区	方墳	—	推定 1辺 9m	—	不明	

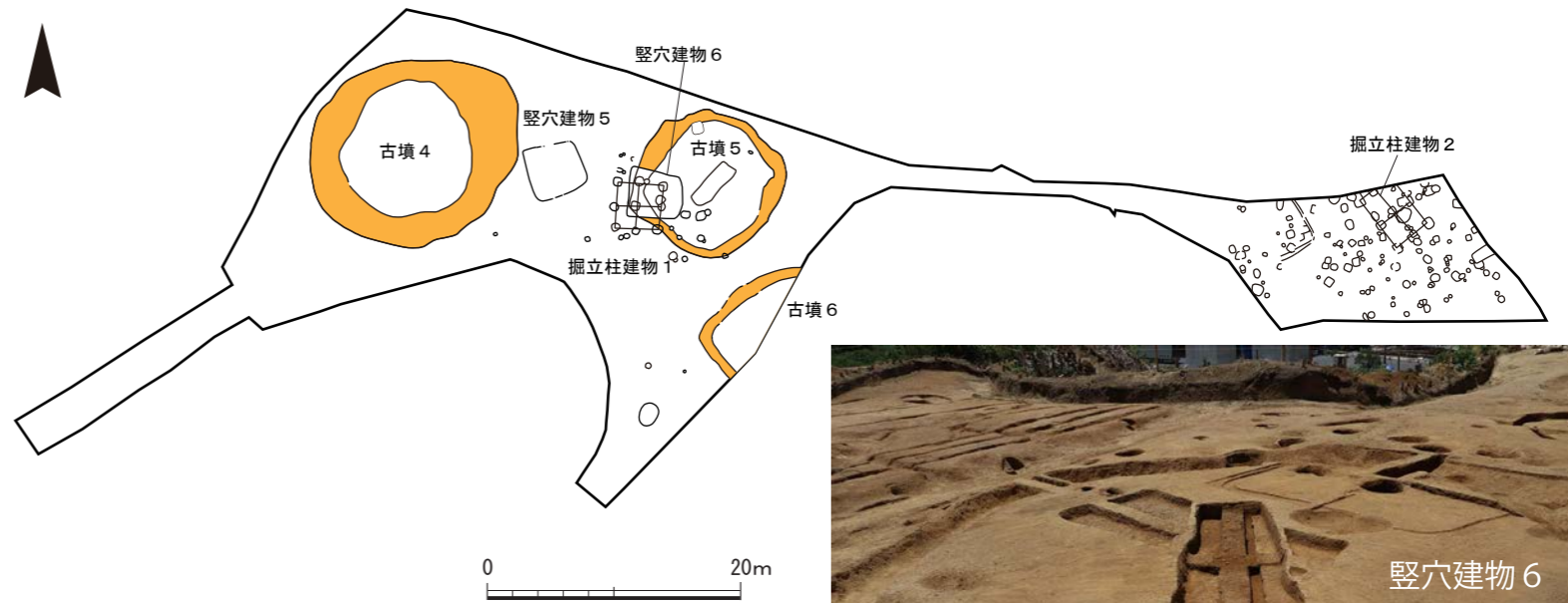


図3 P地区遺構配置図



写真3 竪穴建物6は古墳5の周溝を壊して建てられています。



写真1 古墳1の周溝が埋まった後に竪穴建物1が建てられています。



写真2 造り出し付円墳の可能性がある古墳2の埋葬施設には鉄槍・鉄刀・鉄鏃、須恵器などが納められていました。



図4 O地区遺構配置図